

三重県中国ビジネスサポートデスク現地レポート

平成 26 年 10 月 27 日

上海デスク（上海納克名南企業管理諮詢有限公司）

「中国のスマートフォン事情」

アップルの iPhone を始め、多くのスマートフォン（スマホ）の生産拠点である中国では、多くの地場ブランドメーカーが日本以上にしのぎを削っています。

中国のスマートフォン普及率は日本以上？

最近、日本ではコンビニ等で「格安スマホ」と称されるお手軽なスマートフォンが販売されていますが、それらのスマホ本体は TCL、HUAWEI（ファーウェイ）といった中国メーカーの製品です。現在中国では iPhone の OEM 生産で有名なフォックスコン（台湾の鴻海精密工業の中国子会社）など、多くのスマホメーカーが存在し、しのぎを削っています。その結果、中国では高価なものからお手頃なものまで、日本以上に老若男女問わずスマートフォンが急速に普及しています。

中国での販売台数 No.1 スマホメーカー「小米」

中国でも iPhone やサムスンの人気が高いですが、今年の第 2 四半期に両社を抜いて中国内シェア No.1 になったスマホメーカーがあります。それが「小米」というメーカーです。

この「小米（中国語では xiao mi、日本語ではシャオミと表記されることが多い）」は 2010 年の創業から僅か 5 年弱で販売台数 No.1 になるまでに急成長を遂げました。特に若者からの人気が高く、その理由としては iPhone に近い性能ながらも、廉価版普及機は 800 元前後からとお手頃価格であり、それでいてスペックも決して低くなく、通常機種では液晶画面はシャープ製、カメラセンサーはソニー製といったハイエンド用の部品が使われており、高額な iPhone を購入できない層を取り込んでいます。

中国の「アップル」、中国の「スティーブ・ジョブズ」

小米はアップルと同様に自社で生産工場を持たないファブレスメーカーであり、また年間 1～2 機種しか生産せず、機種を絞り込む代わりに大量発注・生産によりコストを下げ、また販売代理店を通さずネットによる直販をメインにすることで商品の低価格化を実現しています。

他にも、小米はアップル同様にイメージ戦略も重視しており、ネット上では「米粉（“粉”は中国語で“ファン”の意味）」と呼ばれる小米の熱烈ユーザー集団も存在しています。

創業者で CEO の雷軍氏 (44 歳) は中国湖北省出身、名門の武漢大学を卒業後、IT 企業であるキングソフト社に入社し、その後総経理、CEO を歴任し、退社後に小米を起業しました。彼による商品発表会のそのパフォーマンスもアップルの故スティーブ・ジョブズを強く意識したものとして知られています。